

名古屋市

令和6年度有料老人ホーム事業者向け

BCP策定後の研修・訓練の実施方法等について

2025年1月16日

MS&ADインターリスク総研株式会社
リスクコンサルティング本部
リスクマネジメント第四部
社会保障・医療福祉グループ
上席コンサルタント 青木雅裕

MS&AD MS&ADインシュアランスグループ

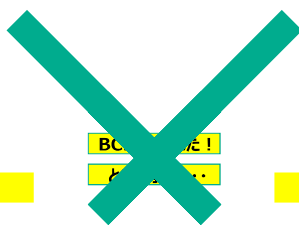
弊社の概要

商号	MS&ADインターリスク総研株式会社 (MS&AD InterRisk Research & Consulting, Inc.)
本社	東京都千代田区神田淡路町2-105 ワテラスアネックス (10~11階)
株主	MS & A Dインシュアランスグループホールディングス株式会社 三井住友海上火災保険株式会社 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 MS & A Dインシュアランスグループ各社
設立年月日	1993年(平成5)年1月4日
資本金	3億3,000万円
売上高	48億1,500万円(2022年4月1日~2023年3月31日)
取締役社長	一本木 真史
役員員数	410名(2024年4月1日現在、海外拠点含む)
事業概要	コンサルティング、受託調査研究、セミナーの開催/講師派遣、出版

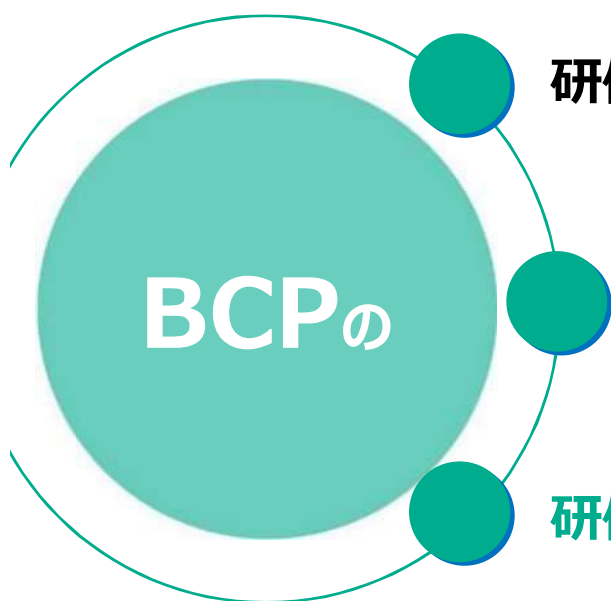


年度	厚生労働省案件における実績(福祉分野)
令和元年度	社会福祉施設等におけるBCPの有用性に関する調査研究事業
令和2年度	介護サービス類型に応じた業務継続計画(BCP)作成支援業務一式
	障害福祉サービス類型に応じた業務継続計画(BCP)作成支援業務一式

BCP策定完了



BCP実行可能



研修方法の理解

訓練方法の理解と、自施設で訓練を

実施する際の具体的なイメージ構築

研修・訓練の実施へつなげる

本講座の進め方 Contents

- I** BCP研修・訓練のポイント
- II** 自然災害BCP訓練の演習例
- III** 感染症BCP訓練の演習例
- まとめ

- I** BCP研修・訓練のポイント
- II** 自然災害BCP訓練の演習例
- III** 感染症BCP訓練の演習例
- まとめ

研修の目的は、自然災害、および感染症**BCPの具体的な内容を、職員間で共有すること。**

訓練の目的は、自然災害/感染症発生時に、**迅速かつ適切に行動できるようにすること。**

また、BCPをより実効性の高いものにするため、**課題を洗い出し、BCPの改善につなげる**こと



▶ **研修目的**

- 例1) BCPを理解してもらう
- 例2) BCPに関連する知識や技術を身に付けてもらう

▶ **実施方法**

講義、ワーク形式、オンデマンド、eラーニング等

▶ **訓練目的**

- 例1) 策定されたBCPで迅速に行動できる
- 例2) BCPの課題を洗い出し、改善につなげる

▶ **実施方法**

実動訓練、机上訓練、実動+机上訓練

名古屋市有料老人ホーム設置運営指導指針

8 有料老人ホーム事業の運営

(5) 業務継続計画の策定等

ア 感染症や非常災害の発生時において、入居者に対する処遇を継続的に行うための、及び非常時の体制で早期の業務再開を図るための計画（以下「業務継続計画」という。）を策定し、当該業務継続計画に従い必要な措置を講じること。計画の策定にあたっては、「介護施設・事業所における感染症発生時の業務継続ガイドライン」及び「介護施設・事業所における自然災害発生時の業務継続ガイドライン」を参照されたい。

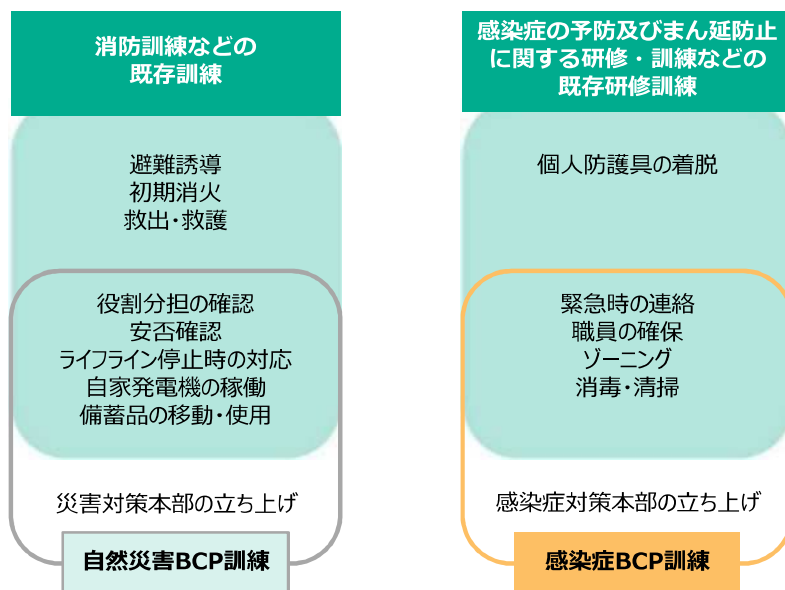
また、想定される災害等は地域によって異なるものであることから、項目については実態に応じて設定すること。なお、**感染症及び災害の業務継続計画を一体的に策定することを妨げるものではない。**

イ 職員に対し、業務継続計画について**周知**するとともに、必要な**研修及び訓練を年2回以上**実施すること。**新規採用時**には別に研修を実施すること。なお、訓練については、机上を含めその実施手法は問わないものの、机上及び実地で実施するものを適切に組み合わせながら実施することが適切である。

なお、業務継続計画の策定、研修及び訓練の実施については、**他の設置者との連携等により行うことも差し支えない。**

ウ 定期的に業務継続計画の**見直し**を行い、必要に応じて業務継続計画の変更を行うものとする。

▶ 既存研修・訓練と一体的な実施



研修・訓練の企画から実施後までの流れ





決定項目	ポイント
1 科目・テーマ	研修方針や年度の重点目標を踏まえテーマを設定する。
2 研修の目的	はじめに目的を短い文で簡潔書きに記し、要点を明らかにすることが大事。
3 研修の到達目標	目的とともに、到達目標を必ず設定する。講師との打ち合わせが円滑になる。
4 日時	ローテーション職場では定例研修が参加率を高める。その際、出席が勤務にあたるのか、自主参加かを明確にする。なお、OFF-JTは勤務として行う研修を指す。
5 会場	職場内の会議室等で行うのが一般的。研修内容や参加者数により、教室形式以外のレイアウトや茶菓子を用意する等、アットホームな雰囲気を出すこともよい。
6 対象者	職場内の業種研修は、日常的な研修の機会が少ない非常勤職員やパート職員にとって有効。積極的に参加を促す仕組みを考えた。
7 参加人数(規模)	職場内での業種研修は、参加者が定員以上のこともあり、履修や役割(力関係)が固定化されている場面が多い。少人数の参加が多いので、受講が容易で工夫が大切。
8 講師(指導者)	外部講師の場合は、緊急連絡先(携帯電話番号)を必ず聞いておく。内部講師を招いた研修はP43を参照。
9 タイムテーブル	60分に1度は休憩をプログラムに入れた。休憩明けは疲れているため、リラックスして受講できる配慮が大切。
10 活用する研修技法 (具体例はP40、41参照)	研修目的を実現するために効果的な研修技法を組み合わせる。講義法の他にグループ討論等の参加型技法を組み合わせると効果が期待できる。
11 費用(講師謝金等)	講師謝金は法人の有無基準を決めておく。
12 教材、教具	外部講師の場合は、用意するものは講師か主催者(専業主婦)が等の役割分担を確認する。
13 評価・フォローアップの方法	参加者アンケートで受講者の満足度を測る。後日、上司コメントを得ることや発表会を行うことも方法。
14 担当者	専任担当者を明確にする。

▶ **研修目的の明確化**

- ・ 誰に？何を？学んでほしいのか？

例) レベル1：BCPの概念概要の理解
施設のどこにBCPが置いてあるのか
報告ルート・報告基準の理解

レベル2：BCPの初動対応の理解
優先業務の理解

▶ **訓練目的の明確化**

- ・ 誰に？何を？学んでほしいのか？
- ・ どのような行動をできるようにしてほしいのか？

例) レベル1：決められたことを確実にできるようにする
(BCPの範囲内)
レベル2：やるべきことを柔軟に発想できるようにする
(BCPの範囲外)

出典：東京都福祉局「小規模事業所のための職場研修の手引」

研修技法	概要	長所	短所
講義法	知識や情報を提供する	効率よく知識を習得できる	単純になりがちである
討論法	問題解決能力等を養う	主体的な参加で気づきを得られる	知識の習得の効率性は劣る
理解促進討論法	テストと討論で、理解原則の理解を深める	討論法より知識の習得や気づきに優れている	テスト問題を作る手間がかかる
事例研究法	事例討論で類似体験や原理原則を確認する	課題分析に優れている	事例を考える手間がかかる
ロールプレイング	基本動作や応用動作等の技術向上を図る	動作確認に優れている	知識の習得には不向きである
研修ゲーム	ゲームを通して、体験的に技術向上を図る(手法は次頁を参照)	体験による満足感が高い	ゲームを自分で作るには難しい
自己診断法	チェックリスト等を活用して、自己認知を深める	客観的に理解できる	チェックリスト作成は手間がかかる
その他の技法	見学、実習等		

【研修技法を組み合わせさせた研修形態の例】

1	オリエンテーション	基調講演	個人ワーク - 課題を各自が - 研修法-事例研 - 技法の活用	グループワーク - 個人ワーク結果 - 事例の共有	まとめ	【講義先行A型】 講義で基本的知識を習得し、グループで実践・事例研究を行う。
2	オリエンテーション	基調講演	グループワーク	個人ワーク - 知識を習得して - 個人ワークでまとめる	まとめ	【講義先行B型】 講義の後、討論で課題を深め、グループで実践・事例研究を行う。
3	オリエンテーション	グループワーク - 具体的な取り組みを交換	個人ワーク - 知識を習得して - 個人ワークでまとめる	講義 - 知識をまとめる - の講義	まとめ	【ワーク先行型】 参加者同士で課題を深め、講義で理解を促す。
4	オリエンテーション	個人ワーク - 課題を各自が	講義 - 知識を習得して - 個人ワークでまとめる	グループワーク - 討議で結果を深める	まとめ	【内省先行型】 研修参加者が、自身の課題を深め、講義で理解を促す。

▶ **研修方法の選択**

- ・ 研修の目的やねらい、テーマの難易度、参加者のレベル・意欲、参加人数等に応じて**研修技法を組み合わせる**

▶ **訓練方法の選択**

- ・ “目的” + “参加者のBCPに関する習熟度”に適した方法を選択する

例) **実動訓練** **机上訓練** **実動+机上訓練の組み合わせ**



出典：東京都福祉局「小規模事業所のための職場研修の手引」

▶ 訓練方法の選択（つづき）

- 各訓練方法の特徴

	実動訓練	机上訓練
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害においては対策本部の立ち上げ、感染症においてはゾーニング等、実際に人や物を動かして実施する訓練 現場において実際に練習を行い、技術の習得・習熟を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 口頭や文書により机上で進行する訓練 状況を想定したシナリオに沿って、情報共有や意思決定等ができるか検討
メリット	<ul style="list-style-type: none"> 実際にかかる時間等、机上訓練では見えない課題の明確化ができる 対応方法により実際の習得・習熟が期待できる 	<ul style="list-style-type: none"> 最小限のメンバーで実施可能 短時間で多くの項目の検討ができる
適する目的	<ul style="list-style-type: none"> 現場の状況や実際にかかる時間等、机上訓練では見えない課題の明確化 現場での対応方法の習得・習熟 	<ul style="list-style-type: none"> 策定したBCPの確認及び改善 BCPの手順の理解 災害/感染症発生時への意識の醸成
内容と方法	<ul style="list-style-type: none"> 対策本部の立ち上げ 緊急連絡網訓練等、発生場面を設定した一連の対応訓練 感染症BCPの場合は、感染者発生時の隔離方法、ゾーニングの実施訓練 等 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者、職員の安全確保・安否確認 時系列での役割分担の確認 計画の手順や優先順位の確認 具体的な場面設定や想定の下、計画の実施可否の検討 等

| 13

② 研修・訓練の実施

▶ 進行

- 進行具合に気を配る
- 参加者の反応を確認しながら進行する



▶ 実施記録

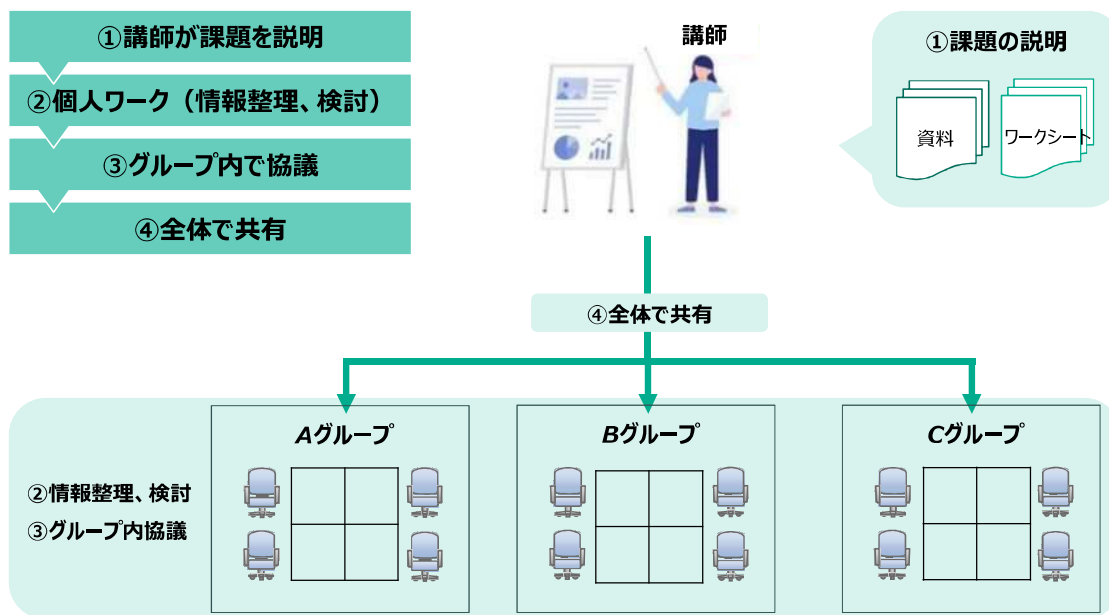
- 実施内容の記録を残し、適切に保管する



| 14

② 研修・訓練の実施（机上訓練_ワークショップ訓練）

I. BCP研修・訓練のポイント



15

③ 研修・訓練の評価

I. BCP研修・訓練のポイント



16

▶ **訓練結果の振り返り**

- **訓練終了時に参加者全員で意見交換する**
→決まった形式はなく、自由に発言できるように進める
- **訓練内の対応について、他グループの発表も踏まえBCPの改善の余地を検討する**
→外部の専門家等の活用も有用
- **訓練自体の評価、検証も行う**
→次回の訓練につなげる

▶ **総合評価**

- **参加者の自己評価**：定量的(点数化)方法と、定性的(自由記述)方法がある
集計後の目的や活用方法に照らして項目を設定する
- **企画・運営側の客観的評価**：訓練目的やテーマの達成状況に対する評価と、参加者の行動に対する評価などがある
- **訓練結果の比較**：評価指標を統一することで、前回(または次回)の訓練結果や他訓練との比較も可能

▶▶▶ **BCPの課題の抽出**



▶ **研修の改善**

- 評価で得られた課題を整理する
- 課題をどのように改善するかを明確にし、**次回の研修に反映する**
- 課題をどのように反映するかを明確にし、**訓練企画につなげる**

▶ **訓練の改善**

- 訓練自体の課題は、担当者内でどのように対応するか明確にし、次回訓練企画に反映する

▶ **BCPの改善**

- 課題点についての対策は、**優先順位**をつけ、**いつ、誰が実施するか**を明確に計画し、**進捗管理**する
→着実に対策が進められる運用体制を築くことが重要
- **対策を講じた項目は次回の訓練で対策が十分か検証する**

I BCP研修・訓練のポイント

II 自然災害BCP訓練の演習例

III 感染症BCP訓練の演習例

まとめ

19

自然災害BCP訓練の演習

II. 自然災害BCP訓練の演習例

ワーク内容

“地震発生後において、各業務の具体的な継続方法をシミュレーションしましょう”

13時30分に大地震が発生し、2時間が経過しています。徐々に被害の状況が明らかになってきました。

□日時：1月16日（木）の15:30

□震度：最大震度7（複数の市区町村） □名古屋市内の震度：6弱

□ライフライン

◆電力：停電 ◆上水道：断水 ◆下水道：使用不可 ◆都市ガス：供給停止

◆電話：キャリアによる通信制限により非常につながりにくい状態。SNSによる通信は可能

◆鉄道：運転見合わせ

検討事項

業務継続(実施)方法を検討してください。

平時と異なる点を意識しながら、「どのように」という手順をできるだけ具体的に考えてください。

● 非常時における食事の提供



20

● 非常時における食事の提供

- 電気・水道・ガスが止まっていますが、調理・配膳はどのように行いますか？
- 食形態に合わせた食事の提供・介助は可能でしょうか？
- 備蓄の量はどれくらい必要でしょうか？

※電力について、自家発電機を施設に有しており、懐中電灯も各階に配備済みであったため、照明は確保できているという想定で議論を行ってください



振り返り

今回の演習では以下について訓練の演習を行いました。

- ・非常時における食事の提供

演習 1 (グループワーク)

- ・現状のBCPで対応は可能でしたか？ 課題はありましたか？



演習 1 発表・共有

- ・どんな意見がグループで出たのかを全体に共有しましょう。



I	BCP研修・訓練のポイント
II	自然災害BCP訓練の演習例
III	感染症BCP訓練の演習例
	まとめ

感染症BCP訓練の演習

Ⅲ. 感染症BCP訓練の演習例

ワーク内容

“利用者が新興感染症に感染した場合における各業務の具体的な継続方法をシミュレーションしましょう”

□日時：1月16日（木）の9:30

新興感染症の流行下で、ユニットAの利用者Yさん及び複数の職員が体調不良を訴えており、症状からも新興感染症の可能性が高いと考えられ、検査を実施したところ、陽性であることが分かりました。

検討事項

業務継続（実施）方法を検討してください。
平時と異なる点を意識しながら、「どのように」という手順をできるだけ具体的に考えてください。

● 関係者への連絡



● 関係者への連絡

- どのような連絡先があるでしょうか
- それぞれの連絡先に、どのような方法で、どのような内容を連絡しますか
- 連絡をするタイミングや担当者は決まっていますでしょうか



振り返り

今回の演習では以下について訓練の演習を行いました。

● 関係者への連絡

演習 2 (グループワーク)

- ・現状のBCPで対応は可能でしたか？ 課題はありましたか？



演習 2 発表・共有

- ・どんな意見がグループで出たのかを全体に共有しましょう。



新型コロナウイルス感染症 感染者発生シミュレーション ~机上訓練シナリオ~
厚生労働省老健局

問1. 感染者発生

▶ 2日前から体調不良で休んでいる職員Aさんから、新型コロナウイルスの検査が陽性だったと連絡が来ました。何をする必要がありますか？

- ▶ 連絡を受けた人はどうしたらよいですか？
- ▶ 施設長は何をしたらよいですか？

【解説】問1. 感染者発生

- ▶ 感染者が発生したときに重要なのは、個人情報等に也十分配慮の上、その情報が必要な関係者に速やかに共有されることです。
 - ▶ 連絡を受けた人は責任者や施設長に速やかに情報を共有します。
 - ▶ 施設長は、保健所への連絡、監督への連絡、施設内職員の連絡、入所者・家族への連絡等がきちんと行われるよう指示します。
 - ▶ このような事案が起こった際にどのように対応するか、どのようなルートで連絡するか、各対応を行うときに誰がキーパーソンとなるかをあらかじめ検討しておきましょう。
 - ▶ 感染症に関する事項は保健所からの指示に従います。
- ▶ さらに、施設内でその他の体調不良者がいないかもチェックしておきましょう。
- ▶ もし職員Aさんに連絡がつくようなら、わかる範囲で直近の施設内の接触者や利用場所を把握するようにしましょう。可能な範囲で消毒を実施することも考慮されます。
- ▶ 症状出現2日前からの接触者リスト、利用者のケア記録（体温、症状等がわかるもの）、直近2週間の勤務表、施設内に入所した者等の記録を準備しておく、保健所が行った積極的疫学調査が円滑になることが期待されます。

出典：厚生労働省老健局高齢者支援課 事務連絡 令和2年9月30日 <https://www.mhlw.go.jp/content/000678401.pdf>

I BCP研修・訓練のポイント

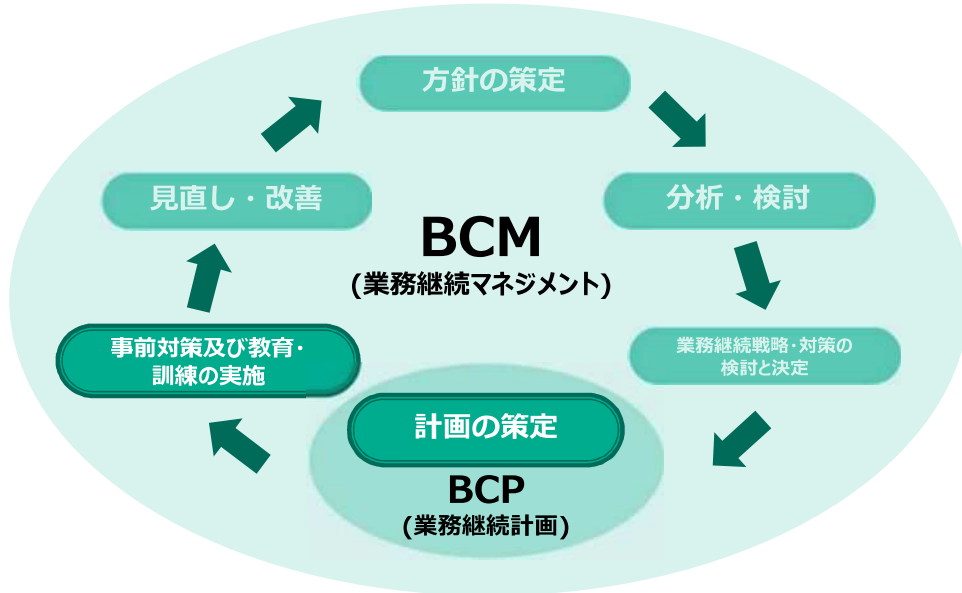
II 自然災害BCP訓練の演習例

III 感染症BCP訓練の演習例

まとめ

まとめ

業務継続の取組みはBCPだけでなく、BCM(Business Continuity Management)のプロセスを繰り返すことによりレベル向上を図っていくことが重要です。



29

まとめ (再掲)



30

BCP机上訓練 【参考】



動画の構成
ひな形（例示入り）を活用したBCPの作り方の解説
1. BCP作成（入所系）
2. BCP作成（通所系）
3. BCP作成（訪問系）
4. BCP作成（居宅介護）
作成したBCPを役立つものにするための机上訓練の解説
5. 机上訓練（入所系）
6. 机上訓練（通所系）
7. 机上訓練（訪問系）
8. 机上訓練（居宅介護）

出典：厚生労働省ホームページ
 > 政策について > 分野別の政策一覧 > 福祉・介護 > 介護・高齢者福祉 > 介護施設・事業所における業務継続計画（BCP）作成支援に関する研修
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/douga_00002.html



MS&AD Insurance Group

MS&ADインターリスク総研株式会社

リスクコンサルティング本部
 リスクマネジメント第四部
 社会保障・医療福祉グループ

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-105
 Tel : 03-5296-8976
<http://www.irric.co.jp>